広報 ぼし

キラキラ☆たまみず

平成31年1月20日　発行［玉水まちづくり協議会］
第59号

発行責任者：会　長　小　立　記　正
連絡先：☎・Fax（079）506－3163

明けましておめでとうございます。昨年も、地震や台風などの大きな災害が各地で発生しましたが、お元気で新しい年を迎えられましたことに、心よりお慶び申し上げます。

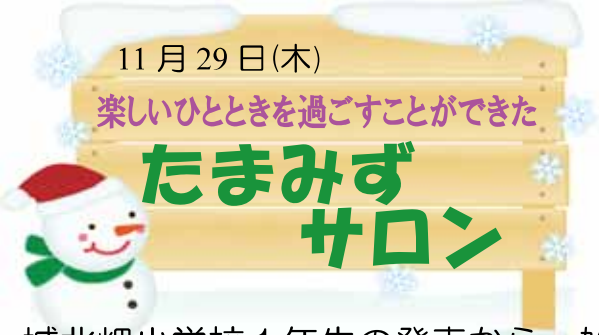
さて、わがまちづくり協議会は、昨年六月のホタル観察会を皮切りに、子どもたちの成長を支えるキラキラ城北納涼まつりや夏休み広場を進めてきました。また、高齢者福祉の一環として、三世代交流グランドゴルフ大会や☆たまみずサロンも開催しました。このような活動を成功裏に終えることができましたのも、自治会を始め多くの方々の支えがあればこそと感謝しております。

今年度は、まち協設立十年の節目を迎えます。これからも、城北地区住民の方々と共に考え、進んでいけるように努力していく所存ですので、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

［玉水まちづくり協議会　会長　小立　記正］

11月に入って、突然、市名変更の住民投票と市長選挙が行われ、その結果、篠山市から「丹波篠山市」へ大きく変わりそうです。４月には、わがまち協も設立10年目を迎えます。

これまで以上に、住民の方々の願いに応えていけるように進めていきたいと思っています。



城北畑小学校１年生の発表から、始まりました。学習発表会で演じた「豆を食べに出た絵馬」をこのサロンでも発表していただきました。かわいい１年生の発表に、見ていた方々は笑顔でいっぱいでした。

黒岡の春日神社に奉納してある「絵馬」の馬が、畦豆を食べに出る言い伝えを劇にした発表を見る参加者の方々。

高齢者の方々と子どもたちが折り紙でふれ合い、心がとても温かくなりました。

参加された方より、「川柳」をいただきましたので、ご紹介いたします。

年を忘れ　子らと折り紙　玉水亭
久しぶり　出会えたよろこび　玉水亭
来年も　又あいましょうね　玉水亭
野間　藤井　淑子作

11/29
（木）

☆たまみずサロン

折り紙を楽しんでおられる気持ちが、見守るスタッフに強く伝わってきました。

昨年度は、エレベーターの設置工事のため、会場を市民センターに移して実施しました。

今年度は、新しいエレベーターがついた玉水会館で開催することができ、参加された方々は手軽に会場に足を運ぶことができました。

城北畑小学校の１年生の発表を観覧し、折り紙を通して楽しく交流できました。「鶴は、こう折るんやで。」とか、「それ、飛行機？」などと子どもたちとの会話もはずみました。

楽器演奏や手品に、身を乗り出すようにして観覧される参加者の方々でした。

続いて、ハッピースマイルさんによる楽器演奏を楽しみました。ふだんあまり聞き慣れないサクソフォーンの音色に耳を傾け、手拍子を打ってその演奏にしばし時を忘れました。

最後は、西澤和義様による手品を堪能しました。写真のように、数々の種類の手品が次から次に披露され、見ている私たちは驚かされるばかりでした。

生きているハトが飛び出したり、何でもない輪がつながったりと、種はどうなっているのかと考えながら見入ってしまいました。

11/3
（土）

ＪＡふれあいまつり

手作りの『城北すごろく』を提供し、ふれあいまつりを盛り上げました。

ＪＡ丹波ささやま主催の「ふれあいまつり」に、まち協も一つのブースを任され、『城北すごろく』を提供しました。今回は初めてということで、急遽（きゅうきょ）篠山東雲高校生にも手伝ってもらいました。

大きなサイコロを振って、マスに止まるとなぞなぞに挑戦するなど、家族や友達同士で楽しく参加できました。

11/10（土） 城北地区人権・同和教育研究大会

講演の様子を抜粋してお知らせします。
内容が難しかったので、うまくお伝えできるか分かりませんが、ご了承下さい。

性の多様性とは、誰も顔や身長、体重が違うように、恋愛や結婚をする・しないこと、いつ、何人の子どもを持つ・持たないことなどはすべて違う。何人（なんびと）も違っていて多様でなければ、社会的に成熟しているとは言えない。

＜心がけたいこと＞

・相手の話を最後まで聴いて受け止める。
・大事なことは、相手と一緒に話し合って決める。
・お互いの違いを認め、自分の考えを押しつけない。
・固定的な女(男)らしさや性の役割を押しつけない。

京都教育大学教授の関口 久志様を講師に迎え、「性」について様々な角度から考えました。

11/11（日） 三世代交流グランドゴルフ大会

秋晴れの好天の下（もと）、城北畑小学校の運動場でグランドゴルフ大会が行われました。

この大会は、まち協が設立されてから毎年開催されていて、楽しみにしておられる方も増えてきました。幼児から小学生までの子どもたちも参加して、和気あいあいとプレーする姿がいたる所に見られました。

「こうやって打つのよ。」とやさしく教えて。いただきました。

プレーの後、玉水会館に会場を移し、表彰式を行いました。今回は、なんとホールインワンが５組も出ました。３位までに入った方に賞品が手渡され、参加者全員に参加賞が贈られました。

ホール手前になると、入れなくてはと手に力が入ります。見ている方々にも、緊張感が走ります。

黒豆入りのおにぎりと温かい豚汁をいただきました。プレーについての感想やお話に、花が咲いていました。

地区紹介 鷲尾

平成３０年の３月、鷲尾地区の山すそに、20アールほどの非耕作田がありました。そこで、このまま放置して、田畑を荒らしてしまってはならないという強い気持ちの５人の男たちが立ち上がりました。その中の２人は非農家でしたが、地域に対する思いはあふれていました。

思わず、「アイガモさん、よろしく頼むよ。」と声をかけたくなりますね。

きれいな谷川の水を活かし、無農薬、天日干しで米を作ろうと決心しました。

彼ら５人は、その水田に谷川の水を利用していることに注目し、そのきれいな水を最大限に活かして米を作ることにしました。

田植え後、約20羽のアイガモを水田に放ち、アイガモの働きに期待しました。

その後、様々な困難を乗り越え、実りの秋を迎えることができました。

稲を刈り取り、稲木を立てて稲をかけ、天日で乾燥させました。

約４０年ぶりに鷲尾地区に、稲木のある田園風景が現れました。

お誘い【農業体験活動に参加しませんか】

３年前から始まったこの活動も、今年で４年目に入ります。最初は、サツマイモと黒豆の２種類しか収穫体験ができませんでした。が、年々種類が増え、今年はイチゴやタマネギ、ジャガイモなどにも挑戦します。［応募につきましては、まち協にお尋ね下さい。］

トウモロコシの収穫です。

昨年のサツマイモは、その大きさにとても驚きました。

自らの手で植え、収穫する喜びをぜひ体験していただきたいと願っています。特に、子どもたちには、自然のすばらしさを伝えていきたいですね。

黒枝豆も、たくさん収穫できました。